

いつの時代も魅力的な“英国紳士”像に迫る ジェントルマンとは何者か

何百年の前から存在感を示し、社会に影響を与えてきた紳士たち。21世紀の
今も魅力的な「ジェントルマン」の正体とは？ お互いに英国通として知られ、ジェントルマンに
ついては一家言あり、日頃から英国談義に花を咲かせているお2人が語り尽します。



田窪寿保さん

たくぼ・としやす

●ブリティッシュ・ラグジュアリー・ブランド・グループ(BLBG)代表取締役。英国ヴァージン・アトランティック航空日本支社を経てグローバル・トロッター・ジャパンを立ち上げ、2004年より同英国本社取締役副社長。09年「ヴァルカナイズ・ロンドン」を南青山に出店。著書『ジェームズ・ボンド仕事の流儀』（講談社）。

中野香織さん

なかの・かおり

●エッセイスト、服飾史家。東京大学大学院修了、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆家に。過去2000年分のファッション史から最新モード事情まで幅広い視野から研究、執筆、レクチャーを行う。2008年より明治大学 国際日本学部特任教授。著書『ダンディズムの系譜男が憧れた男たち』（新潮選書）他多数。

時代によって変わる
英国紳士。変わらな
いのは
面倒くささ？

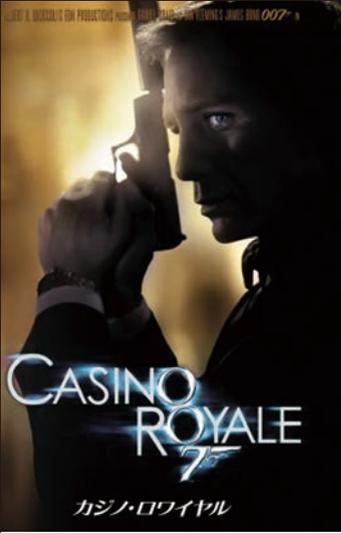
中野香織さん（以下敬称略）田窪さんは今日珍しくネクタイをしていいますが、いつもはつけていないですね。ネクタイをしないのは、今の英国紳士の流れでもあるわけですか？

田窪寿保さん（以下敬称略）最近、紳士が集まるロンドンの金融街、シテイでも、ビジネスなどオンのシーンでネクタイをしない人が増えています。いわゆるモダンジェントルマンと呼ばれる人たちです。英国紳士といっても時代によって変わります。

中野 そもそもジェントルマンに明確な定義はないですからね。もともとは中世の土地持ち、ジェントリ階級という支配階級がジェントルマンと呼ばれ始めました。そして19世紀中頃、中産階級からもどんどん入ってきて、中産階級特有の謹厳さや誠実さがジェントルマンの資質に加わった。それが大英帝国の発展と共に世界に広がり定着、今に至るため、日本人のジェントルマン像は19世紀で止まっているかもしれません。

田窪 僕も以前は騎士道のイメージをもっていました。最初のジェントリ階級には自堕落やデカダンな部分があり、実際は両面がありますね。

中野 そう、時代や場面に応じて両面を上手に表現できる人が本物の紳士。さらにはいえば、その時代の支配



©Photos:KAZ ARAHAMA (D-CORD)

3. 世界一有名な英国諜報部員、007はイートン校出身

上流階級出身のジェームズ・ボンドは英国紳士の1つのモデル。特に『007カジノ・ロワイヤル』のダニエル・クレイグは、話し方から立ち居振る舞いまで英国紳士のエッセンスを見事に体現している。とボンド通の田窪さん。

●最新作『007スペクター』は12月公開。

1. アイザック・ウォルトンの名著『釣魚大全』

アイザック・ウォルトンは17世紀英国の随筆家、伝記作家。商人として財を成した後隠遁生活に入り、執筆したのが『釣魚大全』。釣り人の聖書であると同時に、英国の田園の美しさを語る随筆の名作として普遍的な人気。

●『完訳釣魚大全I』飯田操訳(平凡社)



階級の特徴が加わるのもジェントルマンの特徴だと思えます。
田窪 21世紀には新しい職種の人たち、いわゆるニューリッチがジェントルマンに加わりましたね。
中野 そのニューリッチを昔からのジェントルマン、いわゆるオールドエスタブリッシュメントたちが半分軽蔑しながらも受け入れていて、その嫌味な感じがまた素敵です(笑)。
田窪 昔は労働者階級と完璧に分かれていたのが、今はジェントルマンがわざとワーキングクラスの英語を話したり、敢えてヨレヨレのスーツを着る時代ですから。ロンドン市長ボリス・ジョンソンがいい例。
中野 ヘンリー王子もワーキングクラスのアクセントで話しますね。フアッションや話し方だけで判断すると、いわゆる貴族とは見えません。
田窪 ジェントルマンも多種多様、ずいぶん幅が広がりました。
中野 逆に、変わらないジェントルマンらしさは何だと思えますか？
私は、時代による変化も静かに受け入れる諦念の観というか、何があってもあまり感情を見せず、大人な感じで受け流すのがらしさかなと。
田窪 戦時中に、「落ち着いて、そのまま毎日続けよう」という標語が盛んに言われましたが、まさにそれですね。僕がロンドンに住んでい

たとき多発テロが起きたのですが、「こういうときこそ普通に、ジェントルマンらしくいきましょう」という感じでした。アメリカならテロが起きたらすぐ星条旗が翻って報復！ですが、イギリスでユニオンジャックが翻つたことはありません。
中野 その精神は17世紀から同じで、清教徒革命の動乱のさ中にアイザック・ウォルトンが釣りの本を書いています。心だけは穏やかにいましょうという姿勢。ジェントルマンの文化にはセルフ・コントロールの意志がずっと流れている気がします。
田窪 なにしろ幼稚園から「パニツクになるな」って教える国ですから。それと、「あなたはジェントルマンですか？」と聞いても絶対ノー、と答えるのもらしさじゃないかな。
「僕はジェントルマンじゃない」と言うほうがカッコいいと思ってるから。ちよつと面倒くさいです(笑)。
中野 本当はそう思っているのに自分ではそう言わない。必ずひとひねりした物言いをするから難しいです。
クラブにバブリックスクール。ジェントルマンは女が怖い？

奥様から逃げる場所ですよ？
田窪 女の人から離れ、オートや車など趣味に没頭したいというのが始まりでしょう。趣味の話や政治の議論に女性が入ってきてほしくないわけです。はつきり言ってイギリスは女性が好き。その辺りからジェントルマン文化が出てくるのかな、と思うくらいです。
中野 だからクラブには女の人が入り込む余地がないのですね。
田窪 男だけでダイナーをするのにホワイトタイの正装をして、シガールの時はベルベットの着を着て、と自分たちだけで完結しています。
中野 イギリスには美味しいうものがないと言われてきましたが、クラブに属する男性だけ美味しい料理を食べてきましたよね。腕のいい料理人は皆クラブが雇っているからと。
田窪 昔は特にそうでした。最近では、招待されればランチなら女性も入れるクラブが増えてずいぶん変わりました。ただ英国紳士は女性を大切にすると思われていますが、本当はすぐく馬鹿にしています。レディファーストも力の差がありすぎるから助けてあげないと、という弱者救済の発想。決してそう言いませんが。

Data
作家のディケンズもメンバーだったThe Arts Club(アーツクラブ)。
1863年、芸術家や文学者、科学者らの情報交換の場として設立され、2011年、モダンな内装に生まれ変わりました。
●40 Dover Street Mayfair
London W1S 4NP
<https://www.theartsclub.co.uk>



2. 英国紳士の隠れ家 ジェントルマンズクラブ

ジェントルマンズクラブの多くが19世紀に誕生。当時からのクラシックな雰囲気を保ち数居の 高いReform Club、Royal Automobile Club、Carlton Club、Oxford and Cambridge Clubなどは別名クラブ街ともいわれるバルマルに集中。また近年モダンに改装されている老舗も多く、The Arts ClubやMorton's、Home Houseが代表。



4. パブリックスクールの頂点といえは

英国紳士にとって、大学よりもどのパブリックスクール出身かが対抗意識のもと。ウィリアム王子が通ったイートンは、首相を始めとする支配階級を数多く輩出し続ける名門中の名門です。燕尾服の制服は有名。優秀な生徒から選ばれた監督生になると、特権的に個性的なベストを着ることが許されるなど、数々の伝統が。寮生活では身の回りなども規律正しさが要求され、王子も料理に挑戦。

5. スポーツにおけるアマチュアズム礼賛

スポーツではプロを否定し、アマチュアでトップを目指すのが紳士の美学。ケンブリッジ大学を舞台に陸上競技でオリンピックを目指す青年たちを描いた映画『炎のランナー』はその象徴。

©Photos:KAZ ARAHAMA (D-CORD)



田窪 経営学や数学など他の学問は全部実学だから、そういうものは商人にやらせておけばいい。支配者に必要なのは何でも落ち着いて対応で

中野 持ち上げているようで落として、女性蔑視ですね。シヨーン・コネリー時代のジェームズ・ボンドはその象徴。ボンドガールを大切に扱っているようで、敵が来たら平気で自分を守る盾にする、あれです(笑)。田窪 家で奥さんに虐げられている人が多いから、それで男だけの世界がよくなるのでは、と思ったり(笑)。中野 男だけの文化を醸成する教育制度、パブリックスクールの存在も大きいですね。8歳から18歳まで男だけで過ごして、男同士のメンタルな結びつきを覚えて外に出たら、やはり男の世界が心地いいでしょう。田窪 そのほうが楽ですからね。中野 ただ支配階級になるための教育は徹底していますね。ジェントルマンが学ぶべきは古典と体育のみ、それがパブリックスクール教育の根幹。一見役に立たないラテン語やギリシャ語ですが、古典を学べば人間の心理が全部わかる。古典こそエリートにふさわしい資質を身に付ける学問だと。あとは体力さえあればいいから体は徹底的に鍛えるけれど、プロのスポーツ選手は否定する。

田窪 必要なのは何でも落ち着いて対応で

中野 必要なのは何でも落ち着いて対応で

田窪 必要なのは何でも落ち着いて対応で

田窪 必要なのは何でも落ち着いて対応で

中野 必要なのは何でも落ち着いて対応で

6. ジェントルマンメーカー、優秀な執事を養成する学校

世界の富裕層やセレブリティ、王室で働くスタッフを教育して派遣するBespoke Bureau(ビスポーク・ビューロー)。付属の英国パトラー・アカデミーでは、ハウスキーピングやシルバーの扱いを含むテーブルマネージメント、ワードローブ管理、ヨット上でのマナーやマネージメント、飲食やペットの管理まで、執事に必要な技能を2週間住み込みで徹底して教えるパトラー・トレーニング・コース(£4,000)ほか、さまざまなコースが。

Data

Guildhall Yard, London EC2V
5AE, Storbritannien, UK
<http://www.bespokebureau.com>
※個人レッスンでのパトラー・トレーニング(1日£450~)、一般的なマナー講座なども。



